

科目名 学術論文作成法(一) (2単位)

担当者氏名 美土路知之、笹木潤

◆学習・教育目標

社会科学は社会事象（事件や現象）に対して〔説明・解釈・批判〕を加え、人間社会の過去から現在、将来にわたる態様や変革のための論理や法則について解明する課題をもっている。それは社会運動や、個別的な興味関心からだけではなく、学術や科学研究の手法を駆使しながら、人間社会やそれを取り巻いている環境に対して、有用な知見や指針を与える任務も負っている。その社会的意義と研究推進の手順について基本的な理解と研究姿勢を獲得する（自立的研究者への成長）ことが目標である。

◆取り扱う領域（キーワードで記載）

社会認識	批評的精神	構造と発展段階	社会調査
データ収集	文献サーベイ	統計処理	データ分析

◆授業の進行等について（単位制度に基づく授業の進行予定・内容）

回数	テーマ	内容	授業のねらいまたは準備しておく事項
1-2回	社会科学の対象と学術研究の方法 (担当 美土路知之)	社会科学の対象とする「社会」観や「世界」観についての基本視座と、研究の方法としての構造分析（横断的視点）と歴史的発展段階（縦断的視点）を統一的に見ることの意義。さらには、事実認識と要因分析の手法として用いられる「分析と総合」や「具象から抽象へ」、「個別と普遍」などのカテゴリーに則して講述する。	社会科学入門（高島善哉、大塚久雄、内田義彦、日高晋）を扱った新書版の書物をひとつとおりに通読しておくこと。
4-6回	問題意識を明確化するために (担当 美土路知之)	社会科学の要諦は、社会事象をどう認識しそれらを「どう説明するか」「どう解釈するか」ということと同時に、個別事象やそれらを対象にした既往研究を「どう批判（批評）するか」にある。こうした過程を通じて問題意識を掘り下げ、オリジナルな研究テーマの脈を探り当てるための手順について講述する。	社会科学の古典といわれている書物は最低でも1点は通読して、先人の問題意識や研究手法に触れておくことを進める（参考図書については第1回講義の折に提示する）。
7-8回	研究課題の設定と文献サーベイの主要 (担当 美土路知之)	社会科学における研究課題の設定に際しては、まず研究史の整理から始まる。当該分野における先行研究を渉猟し、これまでに「何が明らかにされてきたのか」そして「どこに未解明な課題を残しているのか」あるいは「誤見や、新事実の発生などのオリジナルな研究へと結実していく。そのための基礎作業の第一歩は関連文献のサーベイから始まる。そのプロセスや技法について講述する。	図書館情報やインターネットなどの検索エンジン、学術図書の検索エンジンなどの操作には接しておくこと。
9-12回	分析を行う上で必要なデータ収集方法について (担当 笹木潤)	設定した研究課題を解明するとき、客観的な事実を事実を積み上げていく。客観的事実の一つがデータである。データ収集方法、利用方法や利用する時の注意について講述する。	図書館情報やインターネットなどの検索エンジン、学術図書の検索エンジンなどの操作には接しておくこと。
13-15回	データを使った分析方法と手段について (担当 笹木潤)	研究課題に対して実証的にアプローチする場合、分析に耐えられるようデータを加工整理した上で、専門的な統計解析ソフトを利用してコンピュータで分析するという手続きを取ることが多い。データの加工方法や統計ソフトの使いかた、そして結果の解釈について講述する。	エクセルの基本的な使い方（データを加工・整理する方法）は修得しておくこと。

◆教科書及び資料（授業前に読んでおくべき本・資料）

書名／著者／発行所（発行年）
基本文献を紹介し、講義のつど資料を配付する。

◆授業をより良く理解するのに便利な参考書・資料等

書名／著者／発行所（発行年）
『社会科学入門』／高島善哉／岩波新書(1986年)、『社会認識への歩み』／内田義彦／岩波新書(1986年)、
『社会科学入門』／日高晋／有斐閣新書(1987年)、『社会科学の方法』／大塚久雄／岩波新書(1989年)、
『論文作成ガイドブック』／片岡信之他／文真堂(2004年)

◆評価の方法（レポート・小テスト・定期試験・課題等のウェイト）

単元ごとに小テストを行うほか、全体を通じたレポートを課し、その総合点により評価する。

◆その他受講上の注意事項

単元ごとに必読文献を指示するので、必ず独習して講義に臨むよう心がけて欲しい。